

パイプハウス建て方研修会を開催

J A全農かながわ生産資材課は、9月16日、田村事務所（平塚市）で「パイプハウス建て方研修会」を開催し、県下8 J Aから14名が参加した。全農・営農技術センター生産資材研究室の広本直樹室長の指導を受けながら、全員で実際に簡易パイプハウスを建てた。

県内では、野菜、果物、花などの施設園芸や育苗用に園芸用ハウスが広く活用されているが、昨年2月の大雪で、県内でもパイプハウスが倒壊するなど甚大な被害が出た。全農かながわは、系統施工協力業者等と協力して再建を進めたが、注文の集中による施工作业員の不足等により、ハウス再建・修繕を自家施工する組合員もいた。最近では、突風や大雨など自然災害が多発していることから、研修でJ A営農指導員にパイプハウス建設に関する基礎知識を習得してもらい、被害を受けたパイプハウス再建を側面支援しようとい

うもの。現在、J Aグループ自己改革に向け策定を進めている、神奈川県版「営農経済改革プラン」でも、「営農指導力強化」を重要な柱として掲げていることから、生産資材課の西村課長は、「前回の反響を受け、2回目となる研修を開催した。組合員の注文や問い合わせに迅速かつ的確に対応できるよう、パイプハウスの構造や建て方などの基礎知識を習得し、日頃の業務に活用していただきたい」と話した。



パイプハウスの建て方を参加者全員で実習した



スライドドアの取り付け方を実習する参加者ら

研修では、直角や水平の測定法や水糸を使った位置調整、地形や風向きを考慮しながら、ゆがみを抑えてパイプを組み合わせていくコツ、部品の設置の向きなど、基本的な設置手順を確認した。また、ハウス完成寸法を把握した上で、必ず実測し、調整しながら設置するようアドバイスした。受講したJ A職員からは「部品名や構造など、営農担当として知っておかないと相談を受けても理解できないので参加した。管内で雪害にあったパイプハウスもあったので、もし相談を受けた時にはしっかり対応したい」との声が聞かれた。